公益財団法人 九州先端科学技術研究所 活動レポート

What IS IT?

ISIT

2026 Vol.103
令和8年10月発行

ISIT:Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

よろず相談における相談事例のご紹介

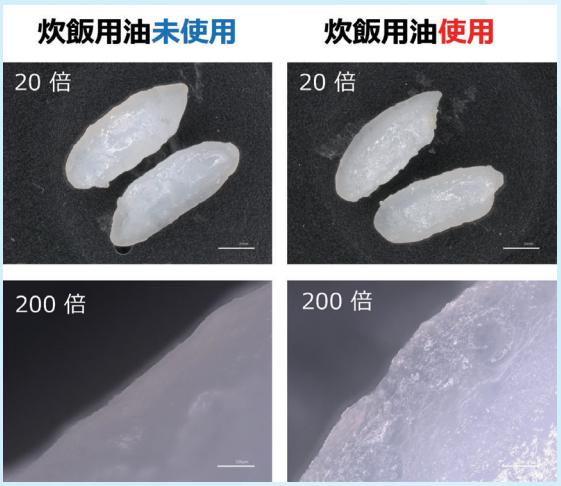
令和8年度

今回は、よろず相談にお寄せいただいた事例の中から、炊飯用油に関する理研農産化工株式会社様の相談事例をご紹介いたします。ご相談を受けていく中で、本製品は効果の「見える化」ができていないことが分かりました。そこで炊飯用油を使用した際の違いをどのように確認・検証するかという点に着目し、以下の2点をご提案いたしました。

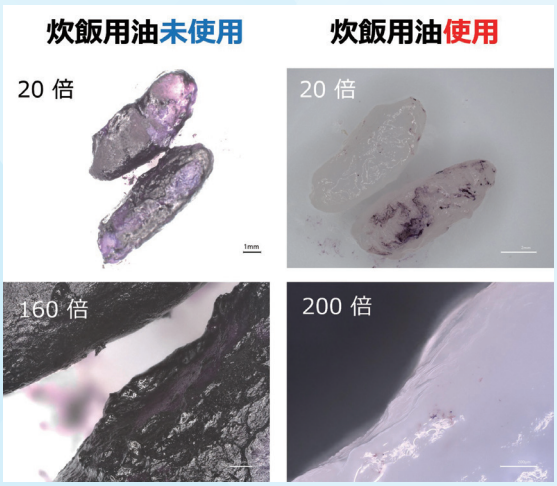
・顕微鏡にて、炊飯用油の使用前後における「お米表面のツヤ」の違いを観察する
・「ヨウ素デンプン反応」を活用し、お米が炊飯用油でコーティングされているかを確認する

福岡市産学連携交流センター(FiaS)に設置されているデジタルマイクロスコープを活用し観察を行ったところ、炊飯用油の使用前後でお米のツヤに明確な違いが見られました。さらに、油でコーティングされたお米はヨウ素デンプン反応による呈色が抑えられることが、目視および顕微鏡観察の両方ではっきりと実証され、表面のコーティングもしっかりされていることが確認できました。以上の結果は、炊飯用油の効果をPRするために非常に有用なデータであるとして、理研農産化工株式会社様のカタログに掲載され、撮影協力としてISITの名称も記載されています。現在も炊飯用油の改善・改良、さらには新たな展開も含めたご相談を継続的にお受けしております。

本事例のように、既存製品の改善・改良や、PRのための科学的アプローチによる「見える化」などにも対応しております。初期相談は無料となっておりますので、まずは一度お気軽にご相談ください。



炊飯用油使用の有無による違い



ヨウ素デンプン反応による炊飯用油の効果

よろず相談「分析NEXT」のご案内

令和8年度

付加価値の高い製品を開発するためには、原料から製品、製造プロセスさらに消費者への対応まで、分析・解析技術が極めて重要です。

ISITでは、九州大学・福岡市・九州大学学術研究都市推進機構と連携し、企業等の皆様が抱える製品開発等における課題に対して、その解決に向けてどのようにアプローチをするかを科学的に紐解く、よろず相談「分析NEXT」事業を推進しています。

同事業ではワンストップ相談窓口を設置し、コンサルティングや電子顕微鏡などの各種分析機器を活用した技術支援を行っております。ISITの賛助会員様や福岡市内の中小企業への優遇措置もご用意しています。

詳細はWebサイトをご覧ください。



分析機器の一例（AFM-IR）



分析NEXTのしくみ

問い合わせ先 マテリアルズ・オープン・ラボ（MOL）事業推進室まで
E-mail：bunseki@next-soudan.com

◆ **分析NEXT Webサイト**：https://next.isit.or.jp/

小中学生向け夏休み体験実験を共同開催

令和8年度

8月1日にISITは、小中学生向け夏休み体験実験「生物に学ぶバイオ・ナノテクノロジー～広がるタンパク質の世界と先端分析が拓く未来～」を九州大学未来化学創造センターおよび福岡市産学連携交流センター（FiaS）指定管理者（西鉄ビルマネージメント・TOPPAN共同事業体）と共同開催しました。

FiaS交流ホールで行われたレクチャーでは、九州大学の神谷典穂教授・日下部宜宏教授、およびISITの吉原大輔イノベーション・アーキテクトが、体験実験の内容について説明を行いました。その後の体験実験では、FiaS交流ホールで行われた九州大学担当のパートにて、緑色蛍光タンパク質（GFP）の蛍光観察実験と、生物由来の汚れを評価できるATP（アデノシン三リン酸）拭き取り試験体験を実施しました。参加した児童は少しでも大きな数値を出そうと競い合い、大変盛り上がりました。

FiaS分析機器室で行われたISIT担当の最先端顕微鏡体験では、最新のデジタルマイクロスコープや最先端電子顕微鏡を実際に操作しながら、FiaS近辺で採取された昆虫や植物などを観察しました。肉眼と顕微鏡を通したマイクロ・ナノスケールでの見え方の違いに、驚きの声があがっていました。当日は、小中学生の親子66名（うち児童26名）にご参加いただき、最新の科学実験や分析機器について体験いただく良い機会となりました。

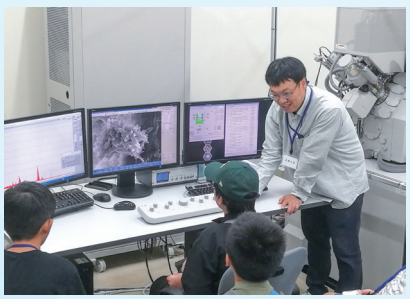
〈レクチャー内容〉
「タンパク質と酵素の話：ホタルのお尻が光る理由？」九州大学大学院 工学研究院　神谷 典穂 教授
「蚕で作る未来のワクチン ～食べるワクチンのお話～」九州大学大学院 農学研究院　日下部 宜宏 教授
「顕微鏡で見てみよう！ ～最先端顕微鏡体験について～ 」九州先端科学技術研究所（ISIT）　マテリアルズ・オープン・ラボ 吉原 大輔 イノベーション・アーキテクト



拭き取り検査の結果を待つ様子



デジタルマイクロスコープによる観察の様子



電子顕微鏡による観察の様子

展示会等出展（MOL事業推進室）

令和8年度

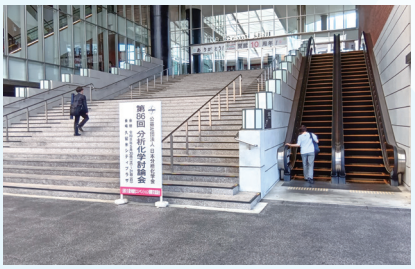
ISITは、九州大学等と連携し、分析機器を利活用して製品・研究開発における技術課題解決を支援するよろず相談「分析NEXT」を推進しており、その取組みを広く紹介するため展示会等へ出展を行いました。

◆**【第86回分析化学討論会】（5月30日～31日）久留米シティプラザ**

本会は公益社団法人日本分析化学会が主催する国内最大級の学術講演会・討論会で、ISITは付設展示会にブース出展しました。会場では、ISITの取組みやよろず相談「分析NEXT」事業について紹介し、討論会参加者はもとより、分析・計測機器メーカーや分析技術提供会社等と相互交流・情報交換を行いました。

◆**【正晃・産業EXPO 2026】（7月14日～15日）北九州メッセ**

本展示会は正晃株式会社が主催し、研究・開発・分析に関わる企業が一堂に会し、製品・サービスを広く紹介する場です。FiaS分析機器室等を活用したよろず相談「分析NEXT」について参加者と情報交換を行い、効果的にPRする貴重な機会となりました。



第86回分析化学討論会会場





正晃・産業EXPO2026の様子

第64回分析化学講習会（SEM/TEM, NMR, 分光分析）を開催しました

令和8年度

ISITは人材育成事業の一環として、日本分析化学会九州支部が主催する「第64回分析化学講習会」に共催として参画しました。

今年度は福岡市産学連携交流センター（FiaS）を会場に、SEM/TEM（8月3日）、NMR（8月4日）、分光分析法（8月6日）の講習を開催しました。ISITは各日の講義および実習において、会場運営のほか、講師や実習指導員の派遣など講習会の円滑な運営を支援しました。

午前中は専門の講師陣（SEM/TEM：九州大学 松村晶先生、NMR：九州大学 松森信明先生、分光分析：大分大学 井上髙教先生、ISIT 河済博文特別研究員）による装置の原理等に関する講義が行われました。

午後からの実機を用いた実習では、3日間を通じてISITメンバーが指導員・講師として装置の操作手順などを丁寧に指導しました。また、分光分析法の実習では日本分光株式会社様のご協力のもと、装置の内部構造を確認しながら実試料の測定を行い、各種測定法への理解を深めていただきました。

講習会の合間には、FiaSの分析機器室やよろず相談「分析NEXT」事業の紹介も実施しました。

受講者からはFiaS設置機器の利用やよろず相談窓口に強い関心が寄せられ、人材育成への貢献と同時に、今後の支援活動へとつながる有意義な機会となりました。







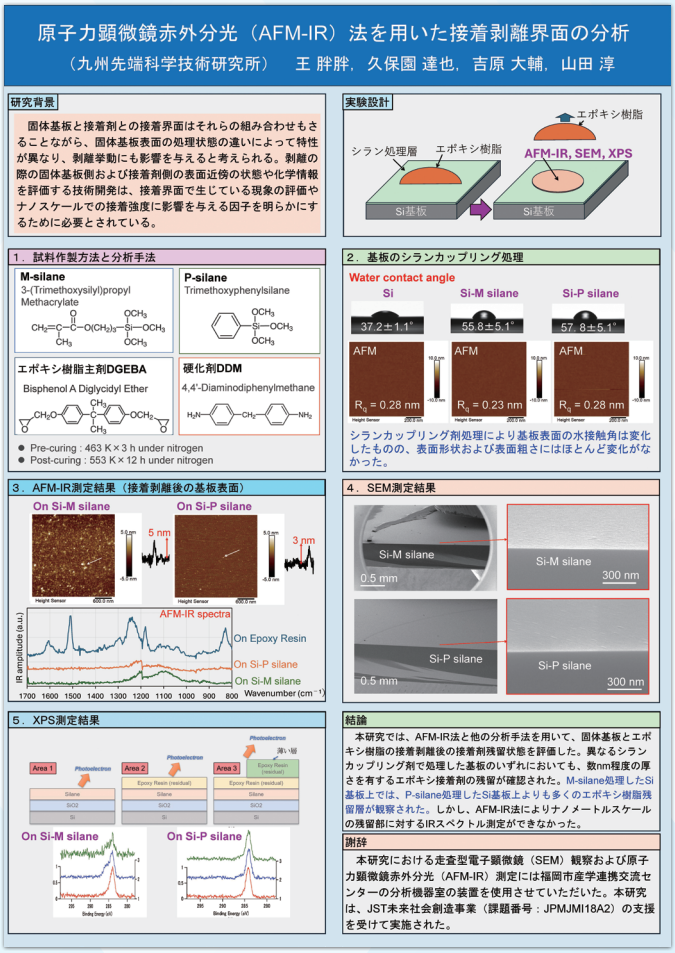
講習・実習の様子

2026年度　第64回日本接着学会　ポスター発表

令和8年度

6月25日～26日の2日間、大阪市中央公会堂にて「第64回日本接着学会年次大会」が開催され、ISITマテリアルズ・オープン・ラボのナノ材料グループが最新の研究成果をポスター発表しました。

ポスター発表には多くの研究者や企業関係者が訪れ、発表時間終了後も質問や活発な意見交換が続くなど、高い関心が寄せられました。



学会発表用のポスター

【発表概要】

九州大学の田中敬二主幹教授がプロジェクトマネージャーを務め、ISITが参画するJST未来社会創造事業（大規模プロジェクト型）「界面マルチスケール4次元解析による革新的接着技術の構築」の一環として得られた成果を発表しました。

当日は、最新の分析手法である原子間力顕微鏡赤外分光法（AFM-IR）を用いた接着剥離界面の分析技術で、シリコン基板とエポキシ樹脂接着剤の剥離界面を高空間分解能で測定し、基板表面に残留する数ナノメートル規模の微小残留層の検出および化学成分の同定に成功した事例を紹介しました。

【今回の成果】

福岡市産学連携交流センターに導入された最新の分析装置を活用することで、従来は分析が困難であったナノスケールの接着剥離界面を化学的に解明できる可能性を示しました。

今後も、よろず相談「分析NEXT」チームとして、最先端の分析技術を活用した研究開発および企業支援をさらに推進してまいります。

株式会社UPayが「ものづくり日本大賞 九州経済産業局長賞」受賞

令和7年度

ISITがよろず相談「分析NEXT」事業で支援を行う株式会社UPay様が、「第10回ものづくり日本大賞」において九州経済産業局長賞を受賞されました。





米ストロー

本賞は、新時代のものづくりに挑戦する個人やグループを表彰するため3年に1度実施されているもので、ISITが推薦機関となり2024年度に応募していたものです。

2026年3月27日に電気ビルみらいホールで開催された九州地区表彰式において、同社は製品・技術開発部門の「使い捨てプラスチックの削減に貢献、食べてもOK！ 米ストローの開発と普及」という案件名で表彰されました。

株式会社UPayの皆様、この度は誠におめでとうございます！

DX『超』実践講座2026を開催

令和8年度

ISITが事務局を務める福岡DXコミュニティでは、5月より全7回の「DX『超』実践講座2026」を開催しました。本プログラムは、「基礎理解（eラーニング）」「実践講座」「実戦（地域企業協働）」の3ステップで構成され、単なるITツールの導入にとどまらない、組織変革を実現するためのマインドセットや実践手法を体系的に学ぶ内容となっています。



DX『超』実践講座の講師登壇、参加者ディスカッション、発表の様子

ステップ2にあたる「実践講座」では、各分野の第一線で活躍する専門家を講師に迎え、DXの本質からチェンジマネジメント、UX、アジャイル、データ活用、新規事業・ビジネスモデル変革まで、幅広いテーマを扱いました。

各回では、具体的な事例分析やワークシートを用いたグループワークを通じて、受講生が自社・自組織の課題と向き合いながら学びを深めました。また、異業種の受講生同士による活発なディスカッションは、現場でDXを推進するうえでの気づきや実践のヒントを共有する貴重な機会となりました。

今後は、ステップ3にあたる「地域企業協働プログラム」へと移行し、講座で得た知識や視点を実際の企業課題の解決に活かしていきます。

福岡DXコミュニティでは、受講生一人ひとりが講座で得た学びを現場で活かし、変革への第一歩を踏み出せるよう、「地域協働プログラム」の成果発表に向けて引き続き実践を後押ししてまいります。

クロスジャンルLTイベント「Orbit Base」がスタート

令和8年度

福岡DXコミュニティは、4月から「Orbit Base」をスタートしました。この「Orbit Base」は、AI、DX、スタートアップ、エンジニア、クリエイターなど、異なる領域で挑戦する人々が集まり、実践や問い、試行錯誤を持ち寄るクロスジャンルLT（ライトニングトーク）イベントです。

エンジニアカフェで開催された初回では、登壇者が現場で直面している課題や、新しい取組みの種を共有しました。また、発表をきっかけに参加者同士の会話も自然と弾み、分野を越えたつながりが広がっています。

本イベントが大切にしているのは、完成された成功事例だけではありません。まだ言葉になりきっていない違和感や進行形の実践を持ち寄ることで、多様な知見や経験を掛け合わせ、「新結合」によるイノベーションのきっかけをつくることを目的としています。参加者からは「普段出会わない領域の話が刺激になった」「自身の取組みを別の角度から見直す機会になった」といった声が寄せられました。一つの発表が他社の経験と結びつき、そこから新たな問いや共創の芽が生まれていく様子は、「Orbit Base」が目指す学びの循環そのものでした。今後も「Orbit Base」では、地域に点在する実践や問いをつなぎ合わせ、領域を超えて高め合えるコミュニティづくりを推進してまいります。



集合写真

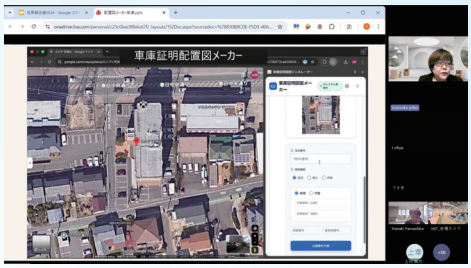


登壇者のみなさん



LTの様子

DXを実践によって学ぶ「地域企業協働プログラム」 | 令和8年度



成果発表会での発表の様子

地域企業協働プログラム（経済産業省事業）は、地域企業が抱えるリアルな課題を題材に、参加者が企業とともに「課題発見」から「解決策の提案・実践」までを経験する実践型人材育成プログラムです。昨年度は、DXや業務改善に関心を持つ参加者がチームを組み、企業へのヒアリングや現状分析を行いました。表面的な困りごとにとどまらず、その背景にある業務プロセスや組織上の課題まで掘り下げたうえで、デジタルツールの活用、業務フローの見直し、情報共有の改善など、企業ごとのテーマに対応。最終成果報告会を通して、学びと提案を地域に共有しました。またそれぞれの挑戦を共有することで、新たな気づきや交流が生まれる機会となりました。

今年度は、参加者が企業へのヒアリングや現状分析を通じて、業務上の課題やDX推進の障壁を整理し、「企業がこれからどのような姿を目指していくのか」を企業担当者とともに考えていきます。対話と検証を重ねることで、各企業にとって実行可能なDXロードマップを作成します。

今年度の説明会や募集は終了いたしましたが、ご興味のある方は今年度2月に開催予定の成果発表会や、来年度の地域企業協働プログラムにぜひご参加ください！

2025年度参加企業とテーマ一覧

ことのは税理士法人	AI×税理士による自動仕訳等の業務効率化
株式会社クリエスタ	高齢者向けAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証
株式会社サンエスライン	機械学習を利用した需要予測モデル開発
行政書士法人小金丸	知的資産を組織の競争力に変えるためのDX・AI活用
株式会社西原商事ホールディングス	リサイクル・廃棄物処理の新規サービス検討
中央地所株式会社	不動産管理のDX推進計画の策定
林ホールディングズ株式会社	生コン輸送におけるAI配車計画システムの検証
株式会社デジオン	個人識別情報（PII）のセキュリティDX創出
URBANIX株式会社	まちの余白を資源化するまちづくりDX

昨年度の取組みテーマ

プログラム参加要件

① 2022年度～2025年度の「マナビDX Quest」ケーススタディ教育プログラム修了生

② 2026年度の「マナビDX Quest」ケーススタディ教育プログラム修了見込みの方

③ その他、DXやITに関する講座等の受講経験やDX業務に従事した経験のある方

※①②③のうちどれか1つでも満たしていれば問題ございません。質問や不明点がある方はお気軽にご連絡ください。

スケジュール

- 2026年8月3日(月) ～ 8月28日(金)
  1次募集期間
  ※ 募集期間中に面接を実施し、選考結果は9月1日（火）にメールでご連絡します。
- 2026年9月1日(火) ～ 9月23日(水)
  2次募集期間
  ※ 1次募集で定員に達した場合、2次募集は実施しません。
- 2026年9月30日(水), 10月1日(木)
  受入企業と受講生のチーミング
  ※ 両日とも19:00～20:00に、オンライン上で受入企業との質疑応答を実施します。
- 2026年10月16日(金) ～ 12月25日(金)
  地域企業との協働期間

プログラム参加要件とスケジュール

ハッカソン・コンテスト“Engineer Driven Day”2026を開催 | 令和8年度

福岡市では、「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」を目指し、エンジニアや企業と協力して「エンジニアフレンドリーシティ福岡（以下、「EFC」）」の取組みを推進しています。EFCでは、時代のニーズに応じたサービスや製品、または時代をリードするプロダクトを生み出すエンジニアの育成・発掘を目的に、アイデア出しからプロダクト開発までの一連の流れを体験するハッカソンイベント「Engineer Driven Day 2026（以下、「EDD」）」を開催しています。


EDD2026キックオフ

EDDは7月のキックオフを皮切りに、メンタリングやハッカソンなど多様なプログラムを通じて参加者の開発を後押しします。また、エンジニアカフェやEFC賛同企業などの経験豊富なエンジニアがサポートを行い、参加者のアイデアを形にして行きます。

期間中に開発された作品は、アイデア・技術力・完成度・成長性などの視点で審査され、優れた成果を収めた個人・チームを福岡市が表彰します。今年度は、昨年度から好評の出張・オンラインでの「アイデアソン」や「生成AIドリル」に加え、新たにオープンデータを活用した「プロダクト開発」を取り入れるなど、これまで以上に参加者の開発を強力にサポートしています。


【会場】福岡市赤煉瓦文化館

EDDのイベント会場である「エンジニアカフェ」は、国の重要文化財に指定されている「福岡市赤煉瓦文化館」内にあります。館内およびエンジニアカフェは見学無料ですので、ぜひお立ち寄りいただき、歴史ある空間と最新技術が融合する雰囲気を感じてみてください。

EngineerDrivenDay サイト

BODIKパートナー制度を新設

令和8年度

ISITは、公共データの活用や自治体との連携に関心を持つ企業・団体との技術提携、実証・共同研究を推進する「BODIKパートナー制度」を7月に新設し、加入企業・団体の募集を開始いたしました。

BODIKではこれまでオープンデータの基盤づくりを行ってまいりましたが、近年、自治体受託企業による「BODIK ODCS」の活用や、民間企業からの共同研究・実証実験（PoC）に関する要望が急増しています。これら多様化するニーズに今後も安定的かつ迅速に応える支援体制を維持・強化し、相互にベネフィットを生み出す仕組みとして本制度を構築いたしました。本制度では、企業の目的に合わせて選択できる2つのプランをご用意しています。

◆ **Partner（年会費30万円）**：BODIKとの技術連携や検証・実証実験を進めたい企業向け

◆ **Strategic Partner（年会費100万円）**：自治体との情報交換やBODIKとの本格的な共同研究・共創を行いたい企業向け

BODIKは、これまで培った豊富な知見と自治体ネットワークを活かして官民共創プロジェクトを強力に推進するとともに、地域企業と自治体が共に価値を創出できる循環型の仕組みを構築し、データ利活用社会のさらなる高度化を目指してまいります。

BODIK PARTNER

BODIKパートナー
https://www.bodik.jp/bodikpartner/

データ連携基盤（FIWARE）の共同利用実証 ― 自治体の壁を越えたデータ活用へ

令和8年度

ISITは、TISI株式会社（本社：東京新宿区）とともに、複数自治体によるデータ連携基盤（FIWARE）の共同利用実証に取り組みました。自治体におけるオープンデータの公開が進む一方、データ形式の違いや導入・運用コストが高価であることが広域活用の課題となっています。



公共施設予約の広域検索システム

【実証取組事例】

1. 公共施設予約の広域検索

福岡市、久留米市、静岡市、大分県の既存システムを改修することなく、公共施設の予約データを自動収集・統一しました。4自治体・213施設、約45万件以上の予約枠を一元化し、自治体の枠組みを越えて一括検索できる仕組みを構築しました。



公共施設予約の広域検索画面

2. AIカメラによる混雑可視化

久留米市では、AIカメラを活用して公共の自習室や駐車場の混雑状況を可視化しました。これにより、住民の「訪問したものの利用できなかった」という空振りを防ぐとともに、職員による現地確認業務の自動化を実現しました。



AIカメラによる混雑可視化

3. AIデータブリッジ

九州の複数の県、福岡市、BODIKでは、生成AIを活用して、異なるデータ構造を自動変換・共通化することで、同一形式での検索・表示を可能にする仕組みを実証しました。

これらの実証により、高価なデータ連携基盤（FIWARE）を共同利用し、多様なデータを統一・標準化することで、自治体のコスト負担を抑えながら広域サービスを実現できる可能性が示されました。

ISITでは今後も、地域を越えたデータ利活用を強力に推進してまいります。

賛助会員募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

会員特典1 ISIT主催のセミナー・交流会のご案内

会員特典2 よろず相談分析NEXTのコンサルティング料金を割引

会員特典3 ISITウエブサイトで会員紹介（リンク等）

会員特典4 活動報告書、活動レポートの送付等

お申込み・問い合わせ先 E-mail：isit-soumu@isit.or.jp または 総務部まで

新規賛助会員のご紹介

■ **LINEヤフーコミュニケーションズ株式会社**

「LINE」などのサービスを展開するLINEヤフーのグループ会社です。

メールマガジン募集

ISITでは、市民講演会や各種セミナーの情報などを発行しております。
メールマガジンのお申し込みは下記URLをご覧ください。

詳細はこちら https://www.isit.or.jp/publication/mailmagazine/

メルマガ登録フォーム
https://17auto.biz/isit/registp/entryform2.htm

メルマガ登録フォーム

公益財団法人 九州先端科学技術研究所（ISIT）

■ **事務局（総務部／事業調整部）**

総　務　部　TEL：092-852-3450
事業調整部　TEL：092-852-3460
FAX：092-852-3455

■ **オープンイノベーション・ラボ（OIL）**

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進しています。
TEL：092-852-3453

〒814-0001　福岡市早良区百道浜2丁目1番22号
福岡SRPセンタービル5階
URL：https://www.isit.or.jp

■ **マテリアルズ・オープン・ラボ（MOL）**

● **ナノ材料グループ／事業推進室**

金属ナノ材料より構成される光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発、ならびによろず相談分析NEXT事業等を行っています。
TEL：092-805-3810
FAX：092-805-3814

● **有機光デバイスグループ**

次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発を行っています。
TEL：092-807-4511
FAX：092-807-4511

〒819-0388　福岡市西区九大新町4-1
福岡市産学連携交流センター（FiaS）内

公益財団法人

九州先端科学技術研究所

Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

賛助会員入会のご案内

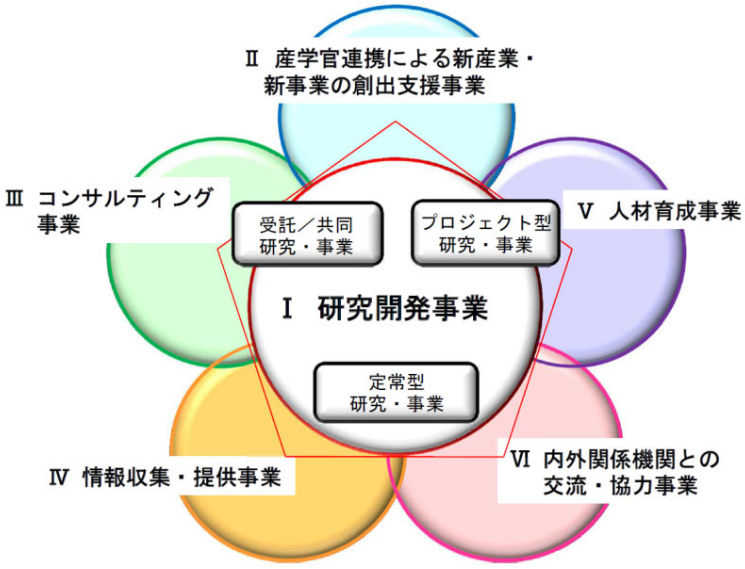
当財団の事業目的に賛同して頂ける方
（企業/団体/個人等）の賛助会員入会を募集中



主な特典

1. ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
2. 分析・解析よろず相談事業（分析NEXT）のコンサルティング料の減免
3. ホームページで会員紹介（リンク等）
4. その他活動報告書や活動レポートの送付

当財団は、システム情報技術、ナノテクノロジーなどの先端科学技術分野において、九州地域における共創の場を提供し、社会実装や社会実証、産業界のニーズと大学等研究機関等のシーズをつなぐ開発研究を産学官連携の下で推進するなど、産業の振興と経済社会の発展に資する様々な活動・事業（公益目的事業）を行っています。



産学官連携プロジェクト（R6.4現在）

- ○ 福岡DXコミュニティ（fdx.community）
- ○ One Kyushu DX（OKDX）
- ○ ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州（BODIK事業）
- ○ SRPオープンイノベーションラボ
- ○ 分析・解析よろず相談事業（分析NEXT）
- ○ ふくおか産学共創コンソーシアム
- ○ エンジニアフレンドリーシティ福岡(EFC)

など

詳細：https://www.isit.or.jp/project/

【入会申込・お問合せ窓口】
当研究所 総務部　Tel ： 092-852-3450　Fax ： 092-852-3455
E-mail ： isit-soumu[at]isit.or.jp　※ [at]=@
〒814-0001　福岡市早良区百道浜２丁目１番２２号　福岡ＳＲＰセンタービル５階

賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所　宛

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

年　　月　　日

ふりがな			
団体名 又は氏名	※法人会員の場合は団体名、個人会員の場合は氏名を正式名称でご記入ください。当研究所のWEBに掲載させていただきます。		
代表者氏名	※個人会員の場合は記載不要		
住　所	〒		
電話番号	※法人会員の場合は代表番号をご記入ください。	FAX番号	
入会理由 ※複数選択可	1．研究開発内容に関心あり　　2．共同研究/共同提案等の実施等 3．コンサルティング（技術相談等）の活用　　4．セミナー・交流会等の活用 5．情報収集等　　6．その他（　　）		
申込口数	※番号に〇をつけて、申込み口数をご記入ください。 1．法人会員　　口（6万円／口）　　2．個人会員　　口（1万円／口）		
メールアドレス	※各種セミナーや講習会などのご案内や賛助会員様への連絡等をお送りする宛先になりますので、必ずご記入ください。		
WebページURL	※当研究所のWEBでのリンク設定を希望されない場合は、□にチェックを入れてください ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ □当研究所の賛助会員ページに上記URLをリンクすることに同意しません。		
※団体（法人会員）での申込みの際は以下もご記入ください。			
担当部署名			
担当者名		電話番号	
備　考			